

地歴 問

地理歴史等

23 年 度

注 意

1. 「解答はじめ」というまで開いてはいけない。
2. 問題は1冊(本文 25 ページ, 下書用紙 2 枚), 解答用紙は 1 枚である。下書用紙は問題冊子の中にはさみこんであるので引き抜いて使ってよい。なお, 問題冊子と下書用紙は持ち帰ってよい。
3. 全部の解答用紙に受験番号を書くこと。受験番号は次の要領で明確に記入すること。

(例) 受験番号 50001 番の場合 →

5	0	0	0	1
---	---	---	---	---

4. 1) 世界史, 2) 日本史, 3) 地理, 4) 倫理, 政治・経済, 5) ビジネス基礎, 以上 5 科目のうちから 1 科目を選んで答えよ。さらに選択科目の番号を受験番号の隣の欄に書くこと。

(例) 2) 日本史を選んだ場合 →

					2
--	--	--	--	--	---

5. 解答は, 解答用紙の所定の位置に横書きで書くこと。他の所に書くと無効になることがある。字数などの指示がある場合は, その指示にしたがって書くこと。字数制限がある場合, 洋数字およびアルファベットにかぎり, 1 マスに 2 文字入れることができる。句読点は, 1 マスに 1 文字とする。問題番号にも, 1 マスを使用すること。例えば問 1 ならば 1 と書けばよい。

世 界 史

I 次の文章は、フス戦争の直前に、フス派(フシーテン)によって作成された「プラハの4カ条」の一部である。この文章を読んで、問いに答えなさい。

チェコの共同体と、神のもとに忠実なキリスト教徒たちは、……主イエス・キリストによって新約聖書のなかで命じられている以下の4カ条以外には何もなさず、求めず、自らのあらゆる財産および生死をかけて、可能な限り、神の加護を得て、これに反対するあらゆる人々に対抗しようとするものである。

……

4. 死に値する罪を犯した人々、とくに公然とあるいはそうでなくても神の法に背いた人々は、どのような身分であれ、しかるべき方法で、そのための職務を有する人々によって捕えられ、取り締まられるべきであり、……

それらの罪とは、……聖職者においては、聖職売買の異端、そして洗礼や堅信、告解、神の体[聖体]や聖油[の付与]と結婚に際しての金銭の徴収、……死者のためのミサ、徹夜の祈禱、その他の祈禱などを有料として金銭を徴収すること、埋葬、教会の歌、鐘[を鳴らすこと]のための金銭の徴収、教会や礼拝堂、祭壇、墓地の聖職者の叙階における金銭の徴収、贖宥による金銭の徴収……などである。

(ヨーロッパ中世史研究会編『西洋中世史料集』より、一部改変)

問い フス戦争へと至った経緯を踏まえるとともに、フス派が何に対して戦っていたかに重点を置きつつ、その結果と歴史的意義を論じなさい。(400字以内)

II 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

明治4年11月12日(陰暦)、右大臣岩倉具視を特命全権大使とし、木戸孝允、大久保利通、伊藤博文らを副使とする総勢46名の外交団をのせた商船アメリカ号が横浜港を出港した。一般に岩倉使節団と呼ばれるこの一行は、約3週間の太平洋横断航海ののちサンフランシスコに到着し、1年半あまりに及ぶ長い欧米歴訪を開始した。竣工したばかりの大陸横断鉄道などを使ってワシントンD.C.へ移動した岩倉らは、その後、大西洋を渡ってロンドンへ、ドーヴァー海峡を越えてパリ^(a)へ行き、ここで、明治6年1月1日の改暦(注)を迎えた。その後も、ブリュッセル、^(b)ハーグ、ベルリン、サンクトペテルブルク、コペンハーゲン、ストックホルム、ローマ、ウィーン、そしてベルンなどの各都市を訪問した一行は、同年7月にマルセイユから再び船上の人となり、完成まもないスエズ運河を経由して、9月に横浜に帰着した。

岩倉使節団の目的は、幕末に相次いで結ばれた条約の締約国を訪れて元首に謁見し、加えて条約改正の予備交渉を行うこと、さらには、欧米諸国の政治制度、経済状況から都市や農村の景観に至るまで、さまざまな側面について見聞を広めることであった。

随行した久米邦武が帰国後にまとめて出版した記録『特命全権大使米欧回覧実記』には、多くの風景スケッチや各国についての概説がもりこまれており、明治初年の日本人が欧米に対してどのようなまなざしを向けていたかを知ることができる。とくに、本書で久米が大国だけでなく、東欧や中欧の小国についても十分な紙幅を割き、それぞれが有する可能性と直面する課題を論じていることは注目に値する。小国に対するこのような関心は、その後、日本が大国への道を歩み始めるにつれて急速に薄れていくことになる。

(注) 陰暦明治5年12月3日を、陽暦に基づき明治6年1月1日とした。

問 1 下線部(a)での滞在中に、久米らは、その2年足らず前にこの都市を舞台にして起こったある出来事で最後の大規模な戦闘があった墓地を訪れている。この出来事については、カール・マルクスが『フランスにおける内乱』と題した冊子で議論している。この出来事を説明しなさい。(50字以内)

問 2 下線部(b)に先立つ十数年間のうちに、ヨーロッパの国際関係は大きく変化した。この変化が準備し、この世紀の末にかけて顕著になる国際関係上の趨勢を視野に入れながら、この変化を説明しなさい。ただし、下記の語句をすべて必ず使用し、その語句に下線を引きなさい。(350字以内)

教 皇 ヴェルサイユ 資 本 バルカン アフリカ

Ⅲ 次の文章を読み、問いに答えなさい。

明の自滅と清の入関は、(A.)にとって大きな岐路となった。(A.)は福州において皇族の朱聿鍵を唐王として擁立したが、1646年に福州が陥落すると清に帰順した。……これに対して息子の(B.)は、官僚になるための研鑽を積んでいたためであろうか、父と別れて清に抵抗する道を選んだあと、一個の政権を目指して活動を展開する。

清朝は(B.)を弱らせるために、順治13年(1656)には、沿海地域の商船が出航して(B.)の側に食料や貨物を売ることを禁止し、さらに玄燁(康熙帝)が即位した順治18年(1661)には福建省を中心に、広東から山東にかけて、海岸線から30里(約15キロメートル)以内の地帯の住民を内陸に移住させる政策を強行した。

沿海地域を無人化するこの(C.)は、私たち現代人の感覚からすると無謀であるように感じられるものの、福建の沿海地域で村落調査をしてみると、確かに実行されたことが明らかである。(B.)の勢力は本土から切り離され、海上に孤立した。(B.)は厦門から撤退し、台湾に拠点に移した。

台湾に2万5000の将兵を率いて移った(B.)は、康熙元年(1662)には(D.)人が築いていたプロヴィンシア砦(赤嵌城)を攻略し、ゼーランジディア砦(台湾城)を包囲し、(D.)人勢力を台湾から撤退させた。

(上田信『海と帝国：明清時代』より、一部改変)

問1 空欄(A.)(B.)(C.)(D.)に当てはまる語句を答えなさい。なお、A、Bには人名、Cには政策名、Dには国名が入る。さらに、Dが17世紀アジアにおいて展開した活動について述べなさい。(200字以内)

問2 Bが台湾にその拠点を移した直後、漢人武将による清朝に対する大きな反乱が起こった。その反乱とは何であるかを述べたうえで、その経緯、清朝史において有した意味を論じなさい。(200字以内)